

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔理科〕 種目〔理科〕

平成31年度使用小学校用教科用図書の採択について

教科 [理科] 種目 [理科]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は都市部もあれば山間部もあり、地域によって自然環境も様々である。また施設も充実しており、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館、森林公園こんちゅう館など様々な分野の事象を具体的に観察、調査することができる環境にある。
- 平成29年度の「基礎・基本」定着状況調査において、本市の児童の理科に関する興味関心は高く、8割以上が「好き」と答えた。学力に関しては「生命」領域については概ね定着しているが、「物質」「エネルギー」「地球」領域は6割を切っており十分定着しているとはいえない。また、観察・実験の結果についてその要因や根拠を考察し、説明することに課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 知識の定着を図るための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 興味・関心を高めるための工夫 ④ 問題解決の能力を育成するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元の配列の工夫 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い
<内容の表現・表記>	⑦ 挿絵・写真などの示し方 ⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「思い出そう」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題を示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りを3ページで記載している。
- 4・5・6年の巻頭に前学年までに学んだ内容を、単元ごとに2ページで示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色で「きけん」とし、注意点を赤色で強調して記述している。
- 4・5・6年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関係する写真やイラストを大きく掲載している。
- 全学年の巻末に付録がついており、3年では「昆虫の切り絵」、4年では「星座カード」、5年では「実物大の胎児の様子」、6年では「人体模型づくり」を掲載している。
- 広島市内の写真（森林公園こんちゅう館、江波山気象館、鈴張川）を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字を用いて問題解決の過程を示し、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「植物の発芽と成長」において、調べる条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示すとともに、結果の予想を位置付けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A物質・エネルギー」「B生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年…14単元、156ページ
 - ・ 4年…16単元、184ページ
 - ・ 5年…10単元、168ページ
 - ・ 6年…12単元、208ページ
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列している。

(2) 補足的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補足的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「わたしの研究」として、3年は4ページ、4・5・6年は2ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真などの示し方

- 4年の「あたたかさど生き物」では、3、4、5、7、10、11、1月ごとの全国5カ所の様子を掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、全国7つの川それぞれの上流、中流、下流の写真に掲載している。
- 6年「大地のつくり」において最初の問題が提示されるまでに、全国4カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがたと温度」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、「考えよう」という項目を立てて、結果からどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこのきまり」において、実験の結果を表に表し、「考えよう」という項目を立ててグラフ化させ、グラフの比較から考察に進むようにしている。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴は、本市内の施設である森林公園こんちゅう館、江波山気象館などの写真を掲載し、本市の児童の興味を引く工夫を施している。また、問題解決の過程において、考察する学習活動を充実させるために、結果から考察へ進む際に「考えよう」という項目を立てて考察する際の手立てを示している。こうした特徴は、本市内の施設についての活用方法を紹介することで本市児童の理科に対する興味や関心を喚起するとともに、観察・実験の結果について、その要因や根拠を考察し、説明することに課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「〇年で学習したこと」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題を示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りが4ページで記載され、チェックする欄を設け学習した内容を確認できるようにしている。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で黄色の文字で「ちゅうい」とし、注意点を赤色の点線で囲み赤色の文字で強調して記述している。
- 4年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載している。
- 3・4年に付録がついており、3年では「昆虫や植物のシール」「動物・植物シート」、4年では「星座シート」を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字を用いて問題解決の過程を示し、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「植物の発芽」において、調べる条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「物質」「エネルギー」「生命」「地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年…14単元、140ページ
 - ・ 4年…16単元、176ページ
 - ・ 5年…11単元、168ページ
 - ・ 6年…12単元、188ページ
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列しているが、前半に1単元A区分の単元（ゴムや風でものをうごかさう）を配置している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「自由研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真などの示し方

- 4年「季節と生き物」では、横浜市の小学校の春夏秋冬の様子を掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、上流の様子の紹介として3つの川の写真を掲載し、下流の様子の紹介として別の川3つの写真を掲載し、1つの川の上流、中流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国4カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「すがたをかえる水」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、「考えよう」という項目を立てて結果からどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこの動き」において、実験の結果を表に表し、「考えよう」という項目を立ててグラフ化させ、グラフの比較から考察に進むようにしている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「思い出してみよう」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に確認の問題を示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りを1ページで記載している。
- 5・6年の巻頭に前学年までに学んだ内容と問題解決の能力を、1ページで示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で白の影付きの文字で「注意」と示し、注意点を欄外に赤色の文字で強調して記述している。
- 4・5・6年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載し、5年以降では、その単元の観察や実験に使用するものを掲載している。
- 3年は見開きで「生き物図鑑」を、4年は季節の星座図を4ページに渡って掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字を用いて問題解決の過程を示し、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「種子の発芽と成長」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示すとともに、調べる条件、そろえる条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「物質」「エネルギー」「生命」「地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年…15単元、140ページ
 - ・ 4年…15単元、176ページ
 - ・ 5年…11単元、172ページ
 - ・ 6年…10単元、216ページ
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B 生命・地球」の内容を、後半は「A 物質・エネルギー」を配列している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 巻末に研究の方法を3年は8ページ、4年は6ページ、5年は7ページ、6年は7ページで記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真などの示し方

- 4年「季節と生きものの様子」では、久喜市と南魚沼市の春夏秋冬の様子を掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、1つの川の上流から下流までの6カ所の写真を掲載し、全国4つの川の上流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくり」において最初の問題が提示されるまでに、全国3カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水の3つのすがた」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、水が凍る様子についてまとめるようにしている。
- 5年「ふりこの運動」において、実験の結果を表とグラフに表し、グラフの比較から考察に進むようにしている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「学習のつながり」のコーナーがあり、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題を示している。
- 各学年の巻末に単元ごとの振り返りが2ページで記載され、チェックする欄を設け学習した内容を確認できるようにしている。
- 4・5・6年の巻頭に前学年までに学んだ内容を、単元ごとに2ページで示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で白抜き文字で「注意」と示し、けがややけどなど特に安全への注意が必要な場面を「危険」のマークでも示し、注意点を赤色の文字で強調して記述している。
- 4年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載している。
- 3年では「生き物ミニ図鑑」を8ページに渡って掲載し、4年では付録「星座カード」を掲載している。
- 広島市内の写真（森林公園こんちゅう館、こども文化科学館、江波山気象館、健康科学館、清掃工場、太田川、ホテルプロジェクトの様子、植樹の様子）を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字を用いて問題解決の過程を示し、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「種子の発芽」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示す中で、変える条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A物質・エネルギー」「B生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年…14単元、180ページ
 - ・ 4年…17単元、208ページ
 - ・ 5年…14単元、196ページ
 - ・ 6年…11単元、206ページ
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列しているが、前半に1単元A区分の単元（ゴムや風でものをうごかそう）を配置し、後半に1単元B区分の単元（かげと太陽）を配置している。

(2) 補足的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補足的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「わたしの研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真などの示し方

- 4年「季節と生き物」では、広島市の小学校で見られる動植物の春夏秋冬の様子を2ページずつ使用し掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、1つの川の上流と下流の写真に掲載し、全国6つの川それぞれの上流、中流、下流の写真に掲載している。
- 6年「大地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国9カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがた」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、手書き風の表とグラフ例が示され、「結果から考えよう」という項目を立てて、グラフ化させどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこ」において、実験の結果を表に表し、「結果から考えよう」という項目を立ててグラフ化させ、グラフの比較から考察に進むようにしている。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴は、本市の小学校の春夏秋冬の様子を写真で掲載するとともに、森林公園こんちゅう館、こども文化科学館、江波山気象館、健康科学館等の写真を掲載し、本市の児童の興味を引く工夫を施している。また、問題解決の過程において、考察する学習活動を充実させるために、観察・実験の結果から考察へ進む際に「結果から考えよう」という項目を立てて考察する際の手立てを示している。こうした特徴は、本市の四季の様子や本市内の施設についての活用方法を紹介することで本市児童の理科に対する興味や関心を喚起するとともに、観察・実験の結果について、その要因や根拠を考察し、説明することに課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元によっては最後に「せつ明してみましよう」のコーナーで問題を示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で白色の文字で「注意」と示し、注意点を橙色の点線で囲み赤色の文字で強調して記述している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載している。
- 全学年において信濃地方の写真に掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 5年「種子の発芽」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示すとともに、調べる条件、そろえる条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 目次において単元名を区分「A物質・エネルギー」「B生命・地球」ごとに色分けをして示している。
- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年…12単元、156ページ
 - ・ 4年…15単元、184ページ
 - ・ 5年…11単元、158ページ
 - ・ 6年…10単元、176ページ
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充的な学習として既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「自由研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真などの示し方

- 4年「季節と生き物」では、1カ所の春夏秋冬の様子を掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、1つの川の上流、中流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくり」において最初の問題が提示されるまでに、6カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがたと温度」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、水が凍る様子についてまとめるようにしている。
- 5年「ふりこの運動」において、実験の結果を表に表し、数値を比較し、考察に進むようにしている。

1 基礎・基本の定着

(1) 知識の定着を図るための工夫

- 単元の始めに「わくわく理科プラス (別冊)」の使用ページが示されており、「わくわく理科プラス (別冊)」において、これまでの学習が振り返られるように示している。
- 単元の最後に直接書き込める確認の問題が示されており、「わくわく理科プラス (別冊)」において、力試しの問題を示している。
- 各学年の巻末に「〇年生の理科をふり返ろう」のコーナーが1ページで記載され、「わくわく理科プラス (別冊)」において、学習した内容を確認できるように示している。

(2) 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 安全に対して配慮が必要な場面を赤色の背景で黄色の記号で「！」と示し、注意点を赤色の文字で強調して記述し、「安全眼鏡をかける場面」、「換気をする場面」、「廃液の処理場面」についてそれぞれマークを使用して示している。
- 4・6年において理科室の使い方を写真とイラストで示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全単元の始めにその単元に関する写真やイラストを大きく掲載している。
- 3・4年に付録がついており、3年では「たんけんカード」、4年では「光る星座カード」を掲載している。
- 広島市内の写真(森林公園こんちゅう館、こども文化科学館のパンフレット、かきいかだ)やイラスト(太田川)を掲載している。

(2) 問題解決の能力を育成するための工夫

- 全学年において、2ページ使用し、理科の学習の進め方の順序が分かるようにイラストと文字を用いて問題解決の過程を示し、各学年で重視すべき問題解決の能力についても記述している。
- 5年「植物の発芽と成長」において、問題解決の過程に沿ったノート記述例を示す中で、変える条件、同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の配列の工夫

- 各学年の単元数及びページ数は、次のとおりである。
 - ・ 3年…13単元、162ページ
 - ・ 4年…16単元、186ページ
 - ・ 5年…11単元、194ページ
 - ・ 6年…10単元、210ページ
- 理科学習の入門期の3年において、前半は「B生命・地球」の内容を、後半は「A物質・エネルギー」を配列しているが、前半に1単元A区分の単元(ゴムや風でものをうごかさう)を配置している。

(2) 補足的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補足的な学習として既習内容を確認する問題と既習内容を活用する問題を記載している。
- 発展的な内容の読み物を掲載している。
- 全学年において「自由研究」として、4ページで研究の方法を記載している。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真などの示し方

- 4年「季節と生き物」では、全国4カ所の春夏秋冬の様子を掲載している。
- 5年「流れる水のはたらき」では、2つの川それぞれの上流、中流、下流の写真に掲載し、1つの川のイラストを示し、特徴的な上流、中流、下流の写真を掲載している。
- 6年「大地のつくりと変化」において最初の問題が提示されるまでに、全国4カ所の地層の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて記載している。
- ユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 4年「水のすがた」において、水を冷やしたときの変化を調べる実験では、「結果を記録しよう」「結果から考えよう」という項目を立てて表とグラフからどのようなことが言えるのか考えさせるようにしている。
- 5年「ふりこのきまり」において、実験の結果を表に表し、「話し合い」という項目を立てて、数値を比較し、考察に進むようにしている。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔生活〕種目〔生活〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、体験活動や町探検、地域の方との交流などが行いやすい地域もあれば、難しい地域もあり、学習環境は様々である。各学校においては、具体的な活動や体験を通す中で、思考を促す活動や気付きを表出する表現活動を行い、気付きの質を高め、児童の意欲の向上につながる指導計画および指導方法の工夫に重点を置いた授業づくりを大切にしている。
- 児童は、意欲的に活動には参加できるものの、総じて実際に地域や自然とかかわるなどの体験する活動や繰り返しとかかわる活動が少ない傾向にある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 具体的な活動や体験を通す工夫 ② 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫 ③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫 ④ 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	⑤ 興味・関心を高めるための工夫 ⑥ 振り返り・表現するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑦ 単元・内容の配列及び分量
＜内容の表現・表記＞	⑧ 適切な写真や挿絵等の活用 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

3 各教科書の特徴及び意見

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園全体の挿絵や商店の様子定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 学校生活の中でできるようになったことについて振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。
- 「じぶんのことをふりかえろう」という特設ページを3回示している。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を、ページ右端に「やくそく」として示すとともに巻末の「べんりてちょう」にも示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「すたあとぶっく」では、2名の児童が地域の安全ボランティアに挨拶している写真を示している。
- キャラクター「たいちゃん」の、問いかけや活動を促す吹き出しにより、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 植物や虫の特徴を捉えたり、違いがしによって安全に対する意識をもったりできるクイズが提示されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様子を示している。
- 学習カードの題を自分自身が書き込む形になっており、1年を通じて同じ形式の学習カードを使っている。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを絵本にまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 10単元 下巻 9単元
- 「スタートカリキュラム」を示しており、保護者向けの説明文がある。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
・トンボ・コオロギ・カマキリ・アリ・オンブバッタ・ショウリョウバッタ・エンマコオロギ・トノサマバッタ
・コバネイナゴ・ツツレサセコオロギ・マツムシ・スズムシ・ウサギ・ハムスター・モルモット・カエル
・ザリガニ・ダンゴムシ・アゲハ・モンシロチョウ・カタツムリ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を41枚の写真などで9ページに渡り示している。
- 「いきものとなかよし」単元の初めでは、ショウリョウバッタの顔のアップの写真を示すなど、片面に大きい写真と児童の吹き出しのある挿絵を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ左側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示しており、変形ページで一連の変化を見ることができる。
- 「ほんとうのおおきさずかん」で、身近な植物を実物大で示し、背景に1cmごとの目盛を付けている。
- 児童が栽培する植物は、種や芽を実物大で示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- ユニバーサルデザインを採用している。
- 季節ごとに色を統一してページを構成している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
①探検マップ ②ポスター ③新聞 ④パンフレット ⑤紙芝居 ⑥電子黒板
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「べんりてちょう」に、言語活動の例を示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、スタートカリキュラムを特設し、学校生活の様子を多くの写真で示し、さらに保護者向けの説明文を示している。また、身近な人々や社会及び自然とのかかわりを深める町探検の学習において、探検活動を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる活動を示している。これは、地域や自然とかかわるなどの体験する活動や繰り返しかかわる活動が少ない傾向にある本市児童の状況に対応することができるものである。

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 小さい頃からの自分の成長を振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「がくしゅうどうぐばこ」として単元後や巻末に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「みんななかよし」では、登校中の児童、地域の人、学校で待っている先生の挿絵を示している。
- 動物のキャラクターによる活動のヒントや注意喚起の吹き出しにより、意欲的に取り組めるようになっている。
- 昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様に示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 4単元 下巻 5単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ベニシジミ・アキアカネ・オオカマキリ・アゲハ・シロスジカミキリ・トノサマバッタ・ナナホシテントウ・イナゴ
 - ・イボバッタ・オンパバッタ・マツムシ・エンマコオロギ・ダンゴムシ・ヤゴ・ザリガニ・メダカ・オタマジャクシ
 - ・ホタル・クワガタムシ・カブトムシ・カミキリムシ・モンシロチョウ・カタツムリ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす家と登校の様子を5枚の挿絵などで4ページに渡り示している。
- 「いきものとなかよし」の単元の初めでは、草むらの中を虫取りしている4人の児童の写真と、草むらの透明ページを示すなど、見開きで大きく掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②クイズ ③ポスター ④紙芝居 ⑤ペープサート
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に、言語活動の例を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園の様子や町の様子の定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 友達との交流や小さい頃からの成長を振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「まなびかたずかん」として単元後や巻末に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「がっこうたんけん」では、学校に向かっているたくさんの児童と校庭で遊んでいる児童の挿絵を示している。
- 挿絵の4人の子供たちの吹き出しにより見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様を示している。
- 上巻では一年を通じて顔の表情を書き込む自己評価欄のある同じ形式のものを示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 5単元 下巻 5単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 「探検」「栽培」「遊び」「飼育」「成長」の五つの活動領域で単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・モルモット・チャボ・ウサギ・ヤギ・アヒル・トノサマバツタ・アキアカネ・コオロギ・ショウリョウバツタ
 - ・ナナホシテントウ・ダンゴムシ・アマガエル・アメリカザリガニ・ハムスター・キリギリス・ヤゴ・アリ
 - ・アゲハチョウ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を見開き1枚の挿絵、20枚の写真と3枚の挿絵のすごろくなどで4ページに渡り示している。
- 「いきものだいすき」の単元の初めでは、2匹のモルモットを囲む4人の児童の写真を示すなど、見開きで大きく挿絵と写真を組み合わせ掲載している。
- 栽培のページでは、ページ右側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②新聞 ③紙芝居 ④絵本 ⑤劇 ⑥ペープサート
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「せいかつ学びかたずかん」に、言語活動の例を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園の様子や町の様子の定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返しかかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 自分ができるようになったことや、小さい頃からの自分自身を振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「おぼえてあんぜん」として単元後や巻末に示している。

2. 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「わくわくどきどきしょうがっこう」では、ランドセルを背負った8名の児童と入学式の写真を示している。
- キャラクター「ぐんぐん」「ふりかえる」の活動を促す吹き出しや、注意喚起の吹き出しにより、見直し、振り返るなど意欲的に取り組めるようになっている。
- 写真による興味を喚起するクイズが提示されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様に示している。
- 活動や気付きの題を自分自身が書き込む形になっている。1年を通じて同じ形式の学習カードを使っている。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 8単元 下巻 7単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
・モルモット・ウサギ・チャボ・アヒル・カナヘビ・シヨウリョウバツタ・トノサマバツタ・ダンゴムシ
・アメリカザリガニ・ヤゴ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を9枚の写真、14枚の挿絵などで6ページに渡り示している。
- 「なかよくなるうね小さなともだち」の単元の初めでは、モルモットのアップの写真と児童がモルモットを抱いている写真を示すなど、見開きで大きく写真を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ左側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。
- 実際の大きさを比較することができるように、どんぐりと色付いた葉の様子を実物の写真で提示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
①探検マップ ②クイズ ③ポスター ④新聞 ⑤絵本 ⑥実演 ⑦紙芝居
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「ぐんぐんポケット」に、言語活動の例を示している。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書は、身近な人々や社会及び自然とのかかわりを深める町探検の学習において、探検活動を3回設定し、同じ場所、人と繰り返しかかわる活動を示している。これは、地域や自然とかわるなどの体験する活動や繰り返しかかわる活動が少ない傾向にある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 地域の豊かな自然の中で見る、探す、触れる、育てる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動とそれらを通して気付いたことを表現する学習活動を多く示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 「いつものばしょ」「さんぽみち」で定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 児童一人ひとりが「命」あるものとの営みを体験できるような学習活動を示している。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 身体的な成長や技能とともに、対象との関わり方、接し方等精神的な成長もとらえられるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する活動場面では、注意喚起の言葉をキャラクターが示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「いってきます」では、登校風景、地域と関わっている挿絵を示している。
- 動物のキャラクターの活動のヒントや注意喚起の吹き出しにより、活動に意欲的に取り組めるようになっている。
- 地域に伝わる五節句や伝統行事、伝承遊びを取り上げている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様に示している。
- 振り返りを作文用紙を用いて記入する例を示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 17単元 下巻 14単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 地域の豊かな自然や日常的な生活事象を題材にして単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
・ウサギ・ヤギ・ハムスター・アイガモ・カイク

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が登校する様子を見開き1枚、2ページに渡り示している。
- 「たのしいおしょうがつ」では、カルタ取りをしている家族の切り絵を示すなど、地域の特色を盛り込んだ「切り絵」を年間通して示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。
- 縦書き右開きである。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
①探検マップ ②ポスター ③紙芝居 ④ペープサート ⑤実演
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合うことを大切にしている。中でも、地域の人との交流の場を多く設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 町の様子を定点観測できる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 学校生活の中でできるようになったことについて振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する活動場面では、！マークを用いて、安全に関わる事項を示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「きょうからいちねんせい」では、子供たちが好きなものをもって挿絵を示している。
- 児童の吹き出しにより、見通しをもち、活動に意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。
- オリジナルソングを収録している。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様に示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードをつなげてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 7単元 下巻 6単元
- 「スタートカリキュラム」を示している。
- 活動のまとめりごとに四季の流れを示している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ウサギ・キンギョ・ニワトリ・モルモット・ハムスター・メダカ・ダンゴムシ・オオカマキリ
 - ・トカゲ・アマガエル・アメリカザリガニ・ヤゴ・ショウリョウバッタ・ナナホシテントウ
 - ・カタツムリ・アゲハ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、見開き2枚の挿絵などで4ページに渡り示している。
- 「いきものとなかよし」の単元の初めでは、ウサギを覗き込む2人の児童の写真を示すなど、見開きで大きい写真を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ右側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②ポスター
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園全体の様子の挿絵や桜の木の写真で定点観測ができるページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 学校生活の中でできるようになったことについて振り返る活動を通して、自分自身の成長に気付くことができるようにしている。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「わくわくずかん」として単元後や巻末に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「いちねんせいになったよ」では、2名の児童と学校生活の挿絵を示している。
- キャラクター「わくわくパンダ」「いきいきウッキー」「なるほどナルホー」の吹き出しにより、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様に示している。
- 観察カードに観点（みた・きいた・におった・さわった・おもった）を示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 10単元、下巻 8単元 別冊 たんけんブック
- 「スタートカリキュラム」を示しており、「いえのひとにみてもらおう」と紹介している。
- 生活科についての保護者向け説明文が掲載されている。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
 - ・ダンゴムシ・モルモット・ウサギ・カマキリ・アヒル・チャボ・トノサマバッタ・カタツムリ
 - ・カエル・ノコギリクワガタ・ナナホシテントウ・コオロギ・タニシ・メダカ・クロベンケイガニ
 - ・ヤドカリ・アメフラシ・アリ

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を17枚の挿絵などで10ページに渡り示している。
- 「生きものとなかよし」の単元の初めでは、ウサギに寄り添う児童のアップの写真を示すなど見開きで大きい写真を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ左側の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
 - ①探検マップ ②ポスター ③クイズ ④新聞 ⑤パンフレット ⑥紙芝居 ⑦劇 ⑧実演
 - ⑨すごろく ⑩カルタ ⑪パソコン
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「わくわくずかん」に、言語活動の例を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 具体的な活動や体験を通す工夫

- 見る、聞く、触れる等、五感を使い体全体で対象に関わる学習活動と、それらを通して気付いたことを表現する学習活動を示している。
- 「見付ける」「比べる」「たとえる」活動を示している。

(2) 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつための工夫

- 公園全体や町の様子定点観測ができる挿絵のページがあり、四季を比べることができる。
- 気付きが多く生まれるように、児童が関心をもって直接働きかけることができる活動例を示している。
- 町探検では、探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返しかわる探検が設定されている。

(3) 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 人とかかわりを通して、自分自身の成長に気付く活動を示している。

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付ける工夫

- 健康や安全に関わる資料や学習活動を示している。
- 安全に関する習慣や技能を「なんでもずかん」として単元後や巻末に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 生活科導入単元の「いちねんせいになったら」では、集団登校、学習中、休み時間に遊ぶ児童の挿絵を示している。
- 動物のキャラクターが問いかける吹き出しにより、見通しをもち、意欲的に取り組めるようになっている。
- 動物や昆虫の体の部分のアップの写真が掲載されている。

(2) 振り返り・表現するための工夫

- 気付きを表した学習カードの例を示しており、児童がカードを書く際の参考になる様に示している。
- 選択式カード、目的式カード、自由記述カード、発展的カードを示している。
- 単元の終わりにアサガオの学習カードを綴じてまとめ、振り返ることができるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元・内容の配列及び分量

- 上巻 9単元 下巻 6単元
- 「スタートカリキュラム」を示しており、保護者向けの説明文がある。
- 季節の流れを軸に、四季を意識しながら学習が進められるよう単元を構成している。
- 飼育では次の生き物を扱っている。
・クワガタ・ヤギ・モルモット・ナナホシテントウ・コイ・カナヘビ・ウサギ・ハムスター・ネコ
・ダンゴムシ・アメリカザリガニ・カタツムリ・カブトムシ・ヤゴ・モンシロチョウ・アマガエル

4 内容の表現・表記

(1) 適切な写真や挿絵等の活用

- スタートカリキュラムでは、児童が過ごす学校生活の様子を24枚の挿絵などで16ページに渡り示している。
- 「いきものといっしょに」の単元の初めでは、たくさんの生き物と子供たちを表した手芸作品の写真を示すなど、見開きで大きい挿絵を掲載している。
- 栽培のページでは、ページ下の同じ場所に種から花、種までの植物の様子を示している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを採用している。

5 言語活動の充実

(1) 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

- 発表会の様子の場面では、場の設定や様々な発表方法を示している。
- 下巻 町探検の発表会での表現方法
①探検マップ ②ポスター ③クイズ ④新聞 ⑤実演 ⑥実物投影機
- 交流は、クラスの友達にとどまらず、幼児、家族、先生、町の人、また、お年寄りや障害のある人、外国籍の人等、多様な人々と触れ合う場を設定している。
- 巻末の「なんでもずかん」に、言語活動の例を示している。